

資料1 開発した44項目のQI定義一覧

No.	カテゴリ	定義
1	睡眠鎮静薬・抗不安薬 (オレキシシン受容体拮抗薬)	スボレキサントを患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はイトラコナゾール、ポサコナゾール、ボリコナゾール、クラリスロマイシン、ボノプラザン・アモキシシリン・クラリスロマイシン、ラベプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン、リトナビル、ニルマトレルビル・リトナビル、エンシトレルビルの併用がないことを確認すべきである
2	抗うつ薬 (フルボキサミン)	フルボキサミンを患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はモノアミン酸化酵素 (MAO) 阻害剤 (セレギリン塩酸塩、ラサギリンメシル酸塩、サフィナミドメシル酸塩)、ピモジド、チザニジン塩酸塩、ラメルテオン、メラトニンの併用がないことを確認すべきである
3	その他治療薬 (ラモトリギン)	ラモトリギンを患者に調剤する場合には、用量漸増期から維持用量に達するまでの期間、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は全身症状を伴う皮膚障害を評価すべきである
4	抗血栓薬 (ワルファリン)	ワルファリンを患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はメナテトレノン、イグラチモド、ミコナゾールの併用がないことを確認すべきである
5	抗血栓薬 (リバーロキサバン)	リバーロキサバンを患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は高度の腎障害や中等度以上の肝障害がないこと、および HIV プロテアーゼ阻害薬、コビススタット、ニルマトレルビル・リトナビル、エンシトレルビル及びアゾール系抗真菌薬の併用がないことを確認すべきである
6	抗血栓薬 (シロスタゾール)	シロスタゾールを患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はうっ血性心不全の既往を確認すべきである
7	抗血栓薬 (シロスタゾール)	シロスタゾールを患者に調剤する場合には、柑橘類の摂取について患者に説明すべきである
8	抗血栓薬 (アスピリン)	アスピリンを患者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は消化管出血・消化管潰瘍の症状の有無を評価すべきである
9	抗血栓薬 (アスピリン/クロピドグレル)	アスピリンとクロピドグレルを 1 か月以上併用調剤する場合には、薬局薬剤師は長期服用の妥当性を把握しているべきである
10	抗血栓薬 (DOAC/ワルファリン)	直接作用型経口抗凝固薬やワルファリンを患者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は出血の評価をすべきである
11	抗血栓薬 (アスピリン/血小板機能抑制薬)	アスピリン、NSAIDs、血小板機能抑制薬を患者に併用調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は出血の評価をすべきである
12	高血圧治療薬 (降圧薬)	降圧薬を患者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は定期的に患者の血圧を把握すべきである
13	脂質異常症治療薬	薬局薬剤師は定期的に患者の LDL コレステロールを把握すべきである

No.	カテゴリ	定義
14	その他治療薬 (非選択性β遮断薬)	薬局薬剤師は、非選択性β遮断薬を用いている患者がCOPD等でβ刺激薬を内服・吸入していないか確認すべきである
15	糖尿病治療薬	薬局薬剤師は、糖尿病患者の血圧を把握すべきである
16	糖尿病治療薬	薬局薬剤師は、糖尿病患者の血中脂質値を把握すべきである
17	糖尿病治療薬	薬局薬剤師は、糖尿病患者の体重を把握すべきである
18	糖尿病治療薬	薬局薬剤師は、糖尿病の患者の治療目標（HbA1cや血糖の目標値）を把握すべきである
19	糖尿病治療薬 (グルカゴン製剤)	グルカゴン製剤を患者に調剤する場合には、使用方法、保管方法、保管場所について、患者と家族等に説明し、グルカゴン製剤は定期的に使用されるものではないことを考慮し、必要時の期限切れを避けるため使用期限に問題がないか確認すべきである
20	糖尿病治療薬 (SU薬)	SU薬を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はグリニド薬の併用がないことを確認すべきである
21	糖尿病治療薬 (グリベンクラミド)	グリベンクラミドを患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はボセンタンの併用がないことを確認すべきである
22	糖尿病治療薬 (ビグアナイド薬)	ビグアナイド薬を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は腎障害がないことを確認すべきである
23	糖尿病治療薬 (ビグアナイド薬)	ビグアナイド薬を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は肝機能の検査値を把握すべきである
24	糖尿病治療薬 (メトホルミン)	メトホルミンを患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は配合変化の観点からオルメサルタンとの一包化は避けるべきである
25	糖尿病治療薬 (GLP-1受容体作動薬)	GLP-1受容体作動薬を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は起床時など空腹時にコップ半分(120ml以下)の水とともに嚙んだりせず服用すること、服用後30分は飲食や他の薬の服用をしないこと、吸湿性が高いため服用直前にPTP包装から出す必要があることを患者に説明すべきである
26	糖尿病治療薬 (イメグリミン)	イメグリミンとビグアナイド薬を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は胃腸障害の発現有無を確認すべきである
27	糖尿病治療薬	糖尿病治療を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はシックデイの対応を患者が理解しているか確認すべきである
28	糖尿病治療薬 (SGLT2阻害薬)	薬局薬剤師は、エンパグリフロジンやダパグリフロジンの投与目的を把握すべきである
29	糖尿病治療薬 (インスリン製剤)	インスリン製剤を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は糖尿病の種類(1型/2型)を把握すべきである
30	糖尿病治療薬 (インスリン製剤)	インスリン製剤を患者に調剤する場合には、理解力、認知機能、視覚機能、操作手技を評価すべきである
31	糖尿病治療薬 (持続皮下インスリン注入療法)	持続皮下インスリン注入療法を行っている患者には、薬局薬剤師はインスリンポンプの不具合により糖尿病ケトアシドーシスが引き起こされること、操作の不手際によるトラブル時に対応するためにSMBG機器一式とともに緊急用のペン型インスリンデバイスと注射針等を常に携帯することを患者に説明すべきである

No.	カテゴリ	定義
32	がん治療薬	がん治療薬を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はがん種を把握しているべきである
33	がん治療薬	がん治療薬を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師はレジメンを把握しているべきである
34	がん治療薬	がん治療薬を患者に調剤する場合には、薬局薬剤師は腎機能評価を実施すべきである
35	がん治療薬	がん治療薬を患者に調剤する場合には、調剤後のフォローアップとして、薬局薬剤師は食事回数・食事量を把握し、食欲不振や悪心・嘔吐の評価をすべきである
36	がん疼痛治療薬 (オピオイド)	運転をする患者へオピオイド鎮痛薬を調剤する場合には、薬局薬剤師はオピオイド使用中は原則運転を差し控えるよう患者に説明すべきである
37	抗うつ薬 (SSRI/SNRI/NaSSA)	SSRI、SNRI または NaSSA を直近 6 ヶ月で 90 日以上調剤している患者において、PDC (Proportion of Days Covered) スコアが 80%以上である
38	BPSD 治療薬/統合失調症治療薬 (抗精神病薬)	抗精神病薬を直近 6 ヶ月で 90 日以上調剤している患者において、PDC スコアが 80%以上である
39	糖尿病治療薬 (経口糖尿病薬)	経口糖尿病薬を直近 6 ヶ月で 90 日以上調剤している患者において、PDC スコアが 80%以上である
40	脂質異常症治療薬 (スタチン系)	スタチン系薬剤を直近 6 ヶ月で 90 日以上調剤している患者において、PDC スコアが 80%以上である
41	抗血栓薬	抗血小板薬または抗凝固薬を直近 6 ヶ月で 90 日以上調剤している患者において、PDC スコアが 80%以上である
42	COPD 治療薬 (LAMA/LABA)	LAMA (長時間作用性抗コリン薬) または LABA (長時間作用性 β2 刺激薬) を直近 6 ヶ月で 90 日以上調剤している患者において、PDC スコアが 80%以上である
43	一般 (共通)	薬局薬剤師は、患者の生活習慣の是正を支援するため、運動の頻度について把握しているべきである
44	一般 (共通)	糖尿病の早期発見・受診勧奨の観点から、薬局薬剤師は非糖尿病患者の HbA1c や血糖値を把握すべきである